

## 世界の主な地震

平成 21 年（2009 年）4 月に世界で発生したマグニチュード（M）6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布を図 1 に示す。また、その震源要素等を表 1 に示す。

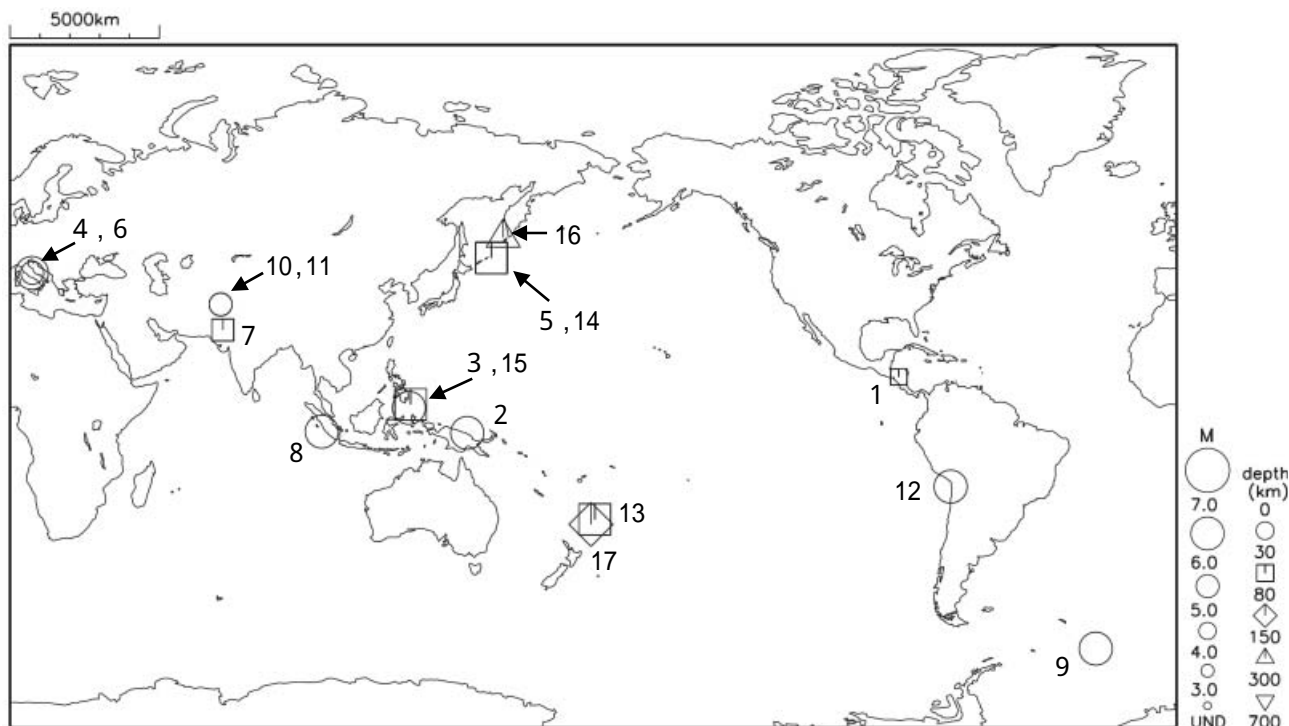


図 1 平成 21 年（2009 年）4 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布  
 <震源要素は米国地質調査所(USGS)発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による>

\* : 数字は、表 1 の番号に対応する。

\*\* : マグニチュードは USGS による mb（実体波マグニチュード）、Ms（表面波マグニチュード）及び Global CMT による Mw（モーメントマグニチュード）のいずれか大きい値を用いて表示している。

\*\*\* : 日本付近で発生した地震の震源要素及びマグニチュードは気象庁による。

表 1 平成 21 年（2009 年）4 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	震源時 月 日 時 分	緯度	経度	深さ (km)	mb	Ms	Mw	震央地名	備考(被害状況など)
1	04月01日02時50分	N13° 27.1'	W 86° 03.0'	35	4.3			ニカラグア	住家被害13棟以上
2	04月01日12時54分	S 3° 30.5'	E144° 11.5'	10	5.9	6.5	6.4	バブアニューギニア、ニューギニア北岸	
3	04月04日14時31分	N 5° 08.9'	E127° 11.9'	48	6.1	5.8	6.3	フィリピン諸島	
4	04月06日10時32分	N42° 20.0'	E 13° 20.0'	9	5.9	6.2	6.3	イタリア中央部	死者295人以上、負傷者1000人以上、建物被害15000棟など
5	04月07日13時23分	N46° 00.4'	E152° 11.5'	30	6.5	(6.7)	6.9	千島列島	
6	04月08日02時47分	N42° 20.7'	E 13° 27.0'	17	5.4		5.5	イタリア中央部	No.6の余震。死者1人、建物被害
7	04月09日10時46分	N27° 07.5'	E 70° 44.2'	44	5.2			インド-パキスタン国境	負傷者2人、住家被害数棟
8	04月16日05時01分	S 3° 07.0'	E100° 28.5'	20	6.1		6.4	インドネシア、スマトラ南部	
9	04月16日23時57分	S60° 11.2'	W 26° 50.7'	20			6.7	サウスサンドウィッチ諸島	
10	04月17日06時27分	N34° 11.2'	E 70° 03.4'	7	5.5			アフガニスタン南東部	死者19人以上、負傷者51人以上、住家被害200棟以上など
11	04月17日08時42分	N34° 07.3'	E 70° 03.0'	7	5.1			アフガニスタン南東部	
12	04月17日11時08分	S19° 34.6'	W 70° 27.1'	25	5.8	5.8	6.1	チリ北部沿岸	
13	04月18日11時03分	S28° 55.1'	W177° 26.5'	65	6.0		5.7	ケルマデック諸島	
14	04月19日04時17分	N45° 59.4'	E152° 04.4'	30	6.3	(6.5)	6.6	千島列島	
15	04月19日14時23分	N 4° 07.8'	E126° 40.5'	25	5.9	5.8	6.1	インドネシア、タラウド諸島	
16	04月21日14時26分	N50° 49.5'	E155° 00.5'	152	6.0		6.2	千島列島	
17	04月26日09時06分	S30° 18.4'	W178° 35.4'	132	5.5		6.1	ケルマデック諸島	

- ・ 震源要素、被害状況等は米国地質調査所(USGS)発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による（平成 21 年 5 月 7 日現在）。ただし、Mw は Global CMT による。また、日本付近で発生した地震の震源要素及びマグニチュード（Ms の欄に括弧を付して記載）は気象庁に、被害状況は総務省消防庁による。
- ・ 震源時は日本時間 [ 日本時間 = 協定世界時 + 9 時間 ] である。

# 4月6日 イタリア中部の地震

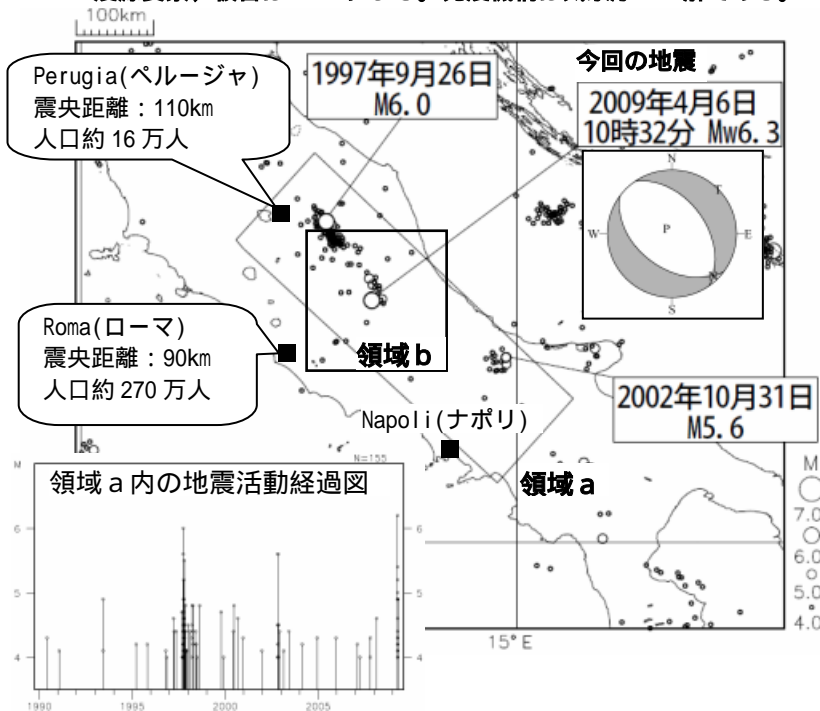
2009年4月6日10時32分頃（日本時間）イタリア中部で Mw6.3 の地震（震源位置およびマグニチュードは米国地質調査所[USGS]による）が発生した。この地震の発震機構（気象庁 CMT 解）は北東 - 南西方向に張力軸を持つ正断層型であった。

震源に近いラクイラ周辺では、多数の建物が崩壊し、死者 295 人以上、負傷者は 1,000 人以上に達した（5月7日現在、USGS による）。また、5月7日現在、余震活動は収束しつつある（欧州・地中海地震センター[EMSC] による）。

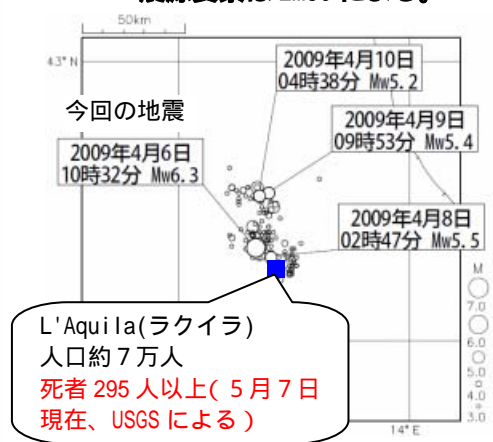
今回の地震の震源周辺では 1915 年 1 月 13 日に M7.0 の地震が発生し、死者 32,610 人などの被害が発生している。

欧州・地中海地震センター[EMSC]は、地震学の国際学会である国際地震学・地球内部物理学協会[IASPEI]の地域委員会で、地震の研究・監視を行う国際非営利組織。

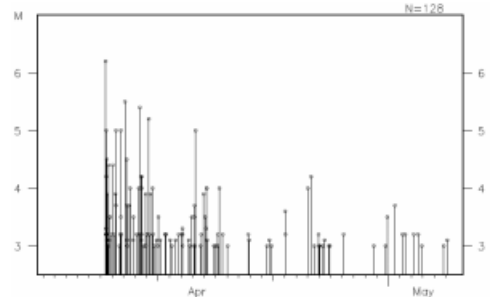
**震央分布図（1990年以降、深さ100km以浅、M 4.0）**  
震源要素、被害はUSGSによる。発震機構は気象庁CMT解である。



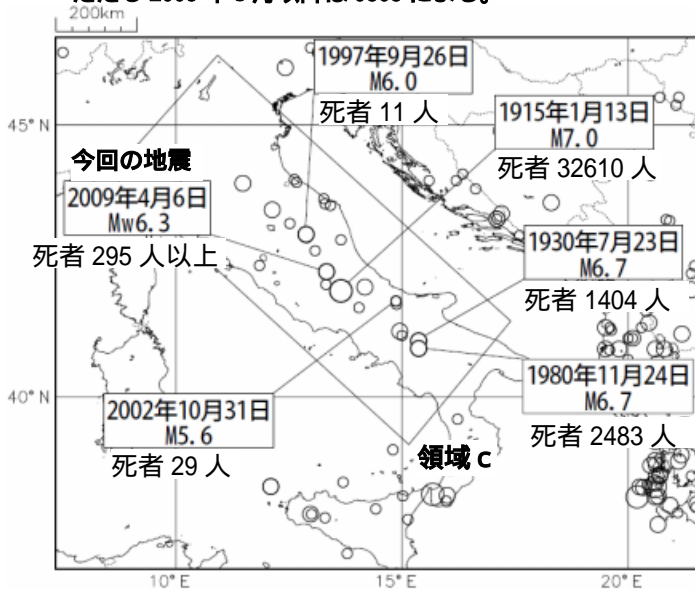
**震源付近（左図領域 b）の震央分布図（4月1日~5月6日、M 3.0）**  
震源要素はEMSCによる。



上図の地震活動経過図



**震央分布図（1900年以降、深さ100km以浅、M 5.5）**  
震源要素、被害は「宇津の世界の被害地震の表」による。ただし2003年8月以降はUSGSによる。



領域 c 内の地震活動経過図

